鳥居龍蔵が記録した台湾

東京大学総合研究博物館蔵

鳥居龍蔵は、その調査研究活動の初期、1896（明治29）年から1911年にかけて５回にわたる台湾調査を行いました。調査は、はじめて台湾先住民族の全てに接触し、彼らを９つの集団に分類したという意義があります。とりわけ、鳥居が現地で撮影した写真は、世界の人類学史においても最初期のもので、資料として大きな価値があります。

鳥居の調査スタイルには、フィールドワークを通して調査対象の人やモノの姿・形を詳細に観察し、そこから比較検討を行うという特徴があります。台湾調査は今から100年以上前のものですが、現在の研究においても、彼が残した様々な資料の価値は色あせていません。この冊子では、鳥居による台湾先住民族の調査について紹介していきます。

鳥居龍蔵（とりいりゅうぞう）（1870～1953）

徳島出身の人類学・民族学・考古学の研究者

20歳で上京し、東京帝国大学人類学教室の坪井正五郎に師事しました。日本国内はもとより、台湾など東アジア各地のさまざまな民族の体格や言語、習慣、生活文化、遺跡の調査を行いました。調査成果は『鳥居龍蔵全集』全13巻にまとめられています。

鳥居が出会った台湾先住民族

台湾先住民族は、台湾の人口の多数派である漢族系の住人よりも古くから台湾に居住してきた人々です。

台湾では、1980年代の民主化の動きにともない、自らの様々な権利を主張する社会運動をきっかけとして、もともとの台湾の住民という意味の「原住民族」という名称が用いられるようになりました。現在では、都市部への移住が多く、衣食住、言語など漢族系の住人と同様な生活様式が浸透しています。

台湾先住民族の名称や分類は、時代や研究者によって異なります。鳥居龍蔵は、言語、伝承、風俗習慣の差異から、先住民族を次の９つのように名づけ、分類しました。ここでは、鳥居が調査分類した各先住民族の特色を紹介します。

1

2

サウ族

先住民族のなかでも人口は少なく、日月潭（じつげつたん）という美しい湖の周辺に暮らしました。写真２は、独自の楽器を演奏しているところです。

3

4

ブヌン族

山岳地帯に暮らし、勇猛果敢なことで知られました。焼畑農業と狩猟を主な生業とし、特に粟が文化的にも大きな意味を持ちました。また、狩猟で得た獣肉の分配などを行いました。

ツォウ族

5

台湾中央山脈にある阿里山（ありさん）の西および南西部の山岳地帯に暮らしました。人口は少なく、南北の２集団に分かれました。他の先住民族に比べ弓矢の技術が発達していました。

ツァリセン族

6

阿里山南方の山岳地帯に暮らしました。パイワン族とならび、彫刻や刺繍（しゅう）などを発展させたことで知られました。

7

8

タイヤル族

台湾北部から中部の山岳地帯に暮らし、顔に入墨を行う風習がありました。女性は、写真のように、機織りができて一人前と認められました。

9

10

アミ族

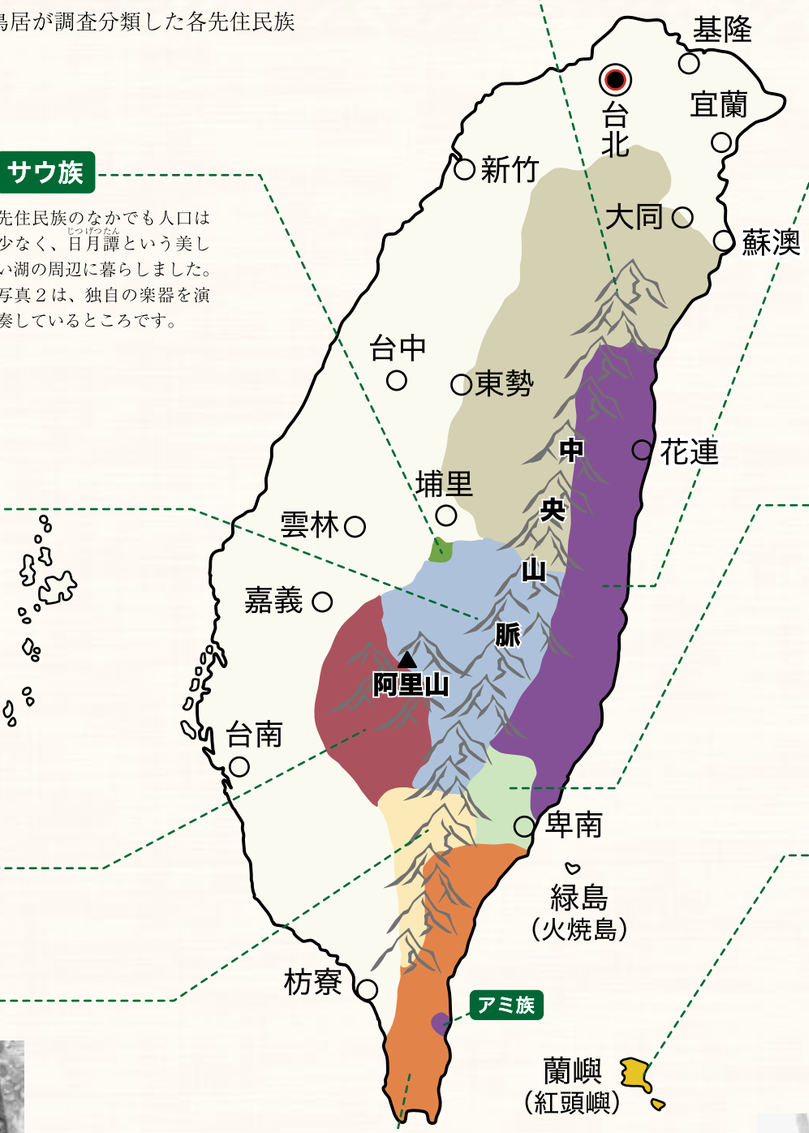
東海岸部の広範な地域に暮らしていました。先住民族のなかでは、もっとも人口が多く、同じアミ族でも、地域によって風俗習慣が大きく異なりました。また、先住民族のなかで唯一、漢族からの影響を受けていませんでした。

11

12

ピウマ族

卑南（ぴなん）付近に暮らし、８つの集団に分かれていたことから「八社族」とも言われました。漢族との交流から、比較的早い段階で稲作文化を導入しています。また、彼らの暮らした地域には、写真12のような巨石文化が見られることも特徴の一つでした。



ヤミ族

台湾島から南東におよそ100kmにある蘭嶼（らんしょ）（紅頭嶼（こうとうしょ））に暮らしました。イモの栽培のほか漁労を特徴として、３～６月にかけては小型船「タタラ」や大型船「チヌリクラン」でトビウオ漁などを行いました。

15

16

パイワン族

南部海岸地帯に暮らしました。人面や百歩蛇（ひゃっぽだ）の意匠を取り入れた工芸や装飾を用いたことが特徴で、近隣のピウマ族やツァリセン族と文化的に相互の影響を受けていたようです。

13

14

※写真番号１～2、7～８は徳島県立鳥居龍蔵記念博物館蔵（以下、「当館蔵」）
その他は東京大学総合研究博物館蔵

台湾先住民族の衣食住、そして言語

衣

先住民族の人々がまとった衣装は、極めて多様です。彼らの衣服の意匠は、自他の集団を区別することや、集団のなかでの地位を示す役割などを果たしました。

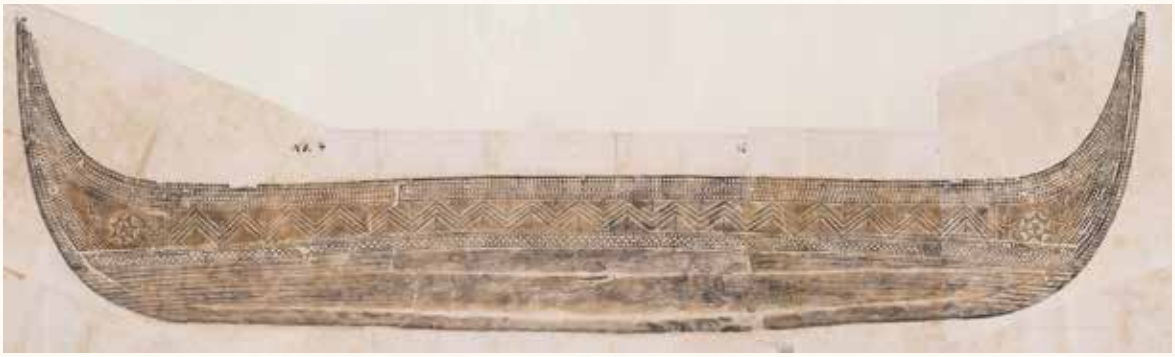
また、先住民族が伝統的に用いてきた意匠は、芸術的にも高く評価され、日本国内の民芸品収集家によっても、数多くの作品が収集されました。

ピウマ族の青年
集団内で一定の階級に進むと、この衣装を着ることができました。
東京大学総合研究博物館蔵

食

先住民族の多くは、粟や根菜類の焼畑農業のほか猪などの狩猟採集によって食料を調達しました。また、ヤミ族のように、漁労による海産物の利用を行っていた人々もいました。さらに、粟などにより作られた酒は、人々のコミュニケーションをはかる際にも、重要な役割を果たしました。酒食をともにすることは、相手に対する最大の歓迎の意味をもっていたのです。

タイヤル族の酒宴の様子
当館蔵



ヤミ族の小型船「タタラ」の拓本 （拓影原寸4280mm×1225mm）
こうした船でトビウオなどの漁を行いました。
当館蔵

住

先住民族の建物は、各民族や地域ごとに異なり多様でした。建材は木材のほか、薄い石材を用いた人々もおり、平屋や高床式などの建物がありました。建物の用途も、住居や、集会所、作業場に休憩所など、彼らの生活文化と密接なかかわりがありました。

パイワン族の住居

薄い石材を用いました。扉の人面彫刻も特徴的です。
東京大学総合研究博物館蔵

ピウマ族の少年集会所

ピウマ族の少年たちは12～13歳からここで共同生活をしました。
東京大学総合研究博物館蔵

ヤミ族の家屋

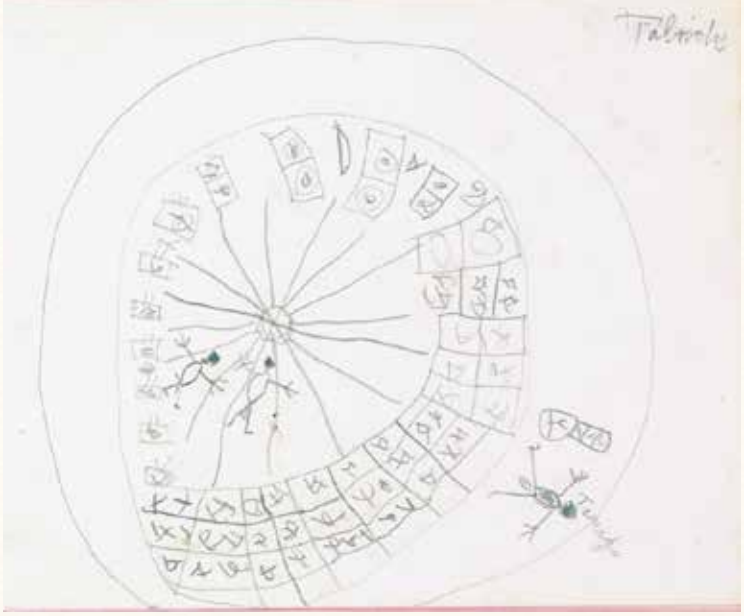
ヤミ族の人々は、住居と仕事場の建物を使い分けました。
東京大学総合研究博物館蔵

言語

鳥居の調査時には、中国語の通訳を介して先住民族と意思疎通を行っていた様子もうかがわれます。しかし、鳥居にとっても先住民族にとっても、基本的には未知との接触であり、鳥居が残したフィールドノートなどの記録からは、身振り手振りや絵画イメージなど、言語によらないコミュニケーションも重要な役割を果たしたことがわかります。

アミ族から聞き取り調査中の鳥居

手にペンとノートを持ち、中央に座っているのが鳥居です。
東京大学総合研究博物館蔵



鳥居が先住民族に描いてもらったと考えられる図画ノート
当館蔵

3つの調査方法とカメラの使用

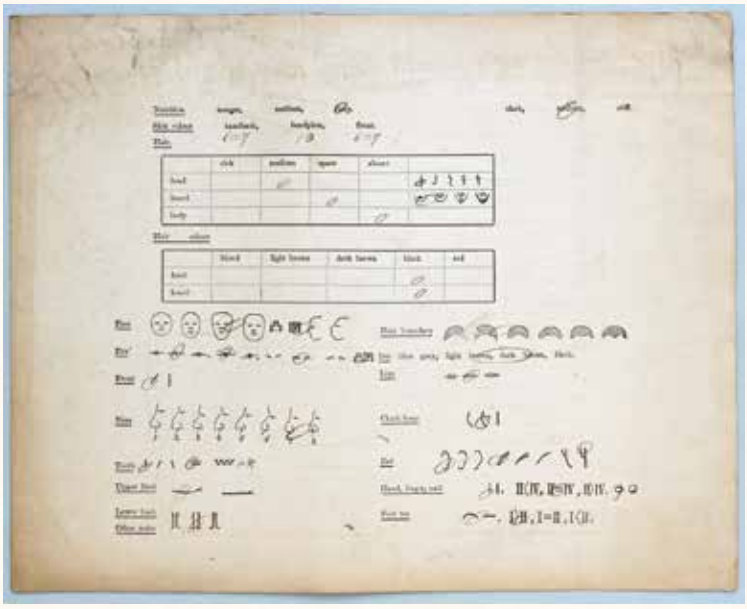
鳥居龍蔵の台湾での調査は、次の３つの調査方法を総合的に用いたほか、カメラを使用したことに特徴があります 。

❶人類学的調査

体格などをカードに記録し、被写体の身体的な特徴を把握するため撮影をしました。

人類学的調査の写真

記録と照合するため名札が胸元につけられています。
東京大学総合研究博物館蔵



鳥居が台湾で使用した人体計測表

あらかじめ、顔や鼻、目の形、髪型などのタイプが印刷されており、記入者が近いと思ったタイプの項目にチェックをしました。ほかにも、身長や肩幅、顔の長さなどの数値を測定し、記入する欄が設けられました。
当館蔵

❷考古学的調査

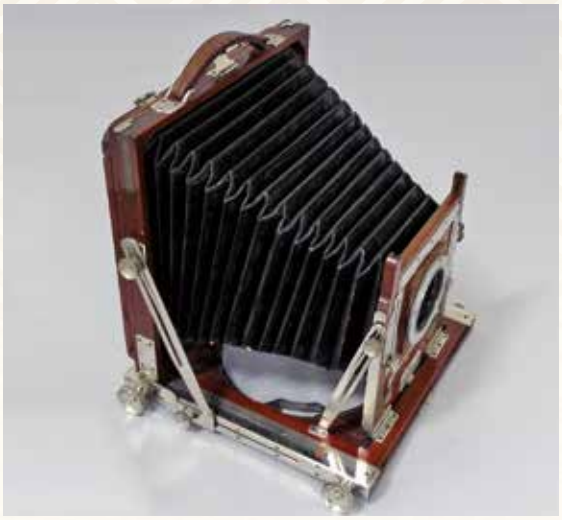
発掘調査と遺物の採集を行い、先史時代の文化を研究しました。

台北の円山貝塚で出土した考古資料
当館蔵

❸民族学的調査

各地の民族の衣食住や生活文化などを調べ、比較研究を行いました。

ヤミ族の帽子
東京大学総合研究博物館蔵



「ガラス乾板写真」用のカメラ
徳島県立博物館蔵

鳥居が用いたカメラについて

鳥居は、先駆的に自らカメラを使用し、調査の迅速性と客観性を高めました。

当時のカメラは、フィルム以前の技術である「ガラス乾板」を使用し、１枚が約80グラムもある乾板を大量に持ち運んでの調査には、大変な苦労がありました。残念ながら、鳥居が使用したカメラは現存していません。

コラム

写真とイラスト

写真と比べて、イラストの強みは何だと思いますか。左の写真をもとに描かれた女性のイラストは、タイヤル族の特徴である額の入墨が目立っています。イラストには、それを見る人々に対し、対象の特徴を強調できる強みがあり、写真とイラストは目的に応じて使い分けられました。

機織りをしている女性の写真
『東京帝国大学理科大学紀要』
第28冊第６編より

顔の入墨が強調されたイラスト
『紅頭嶼土俗調査報告』より

姿・形と色彩

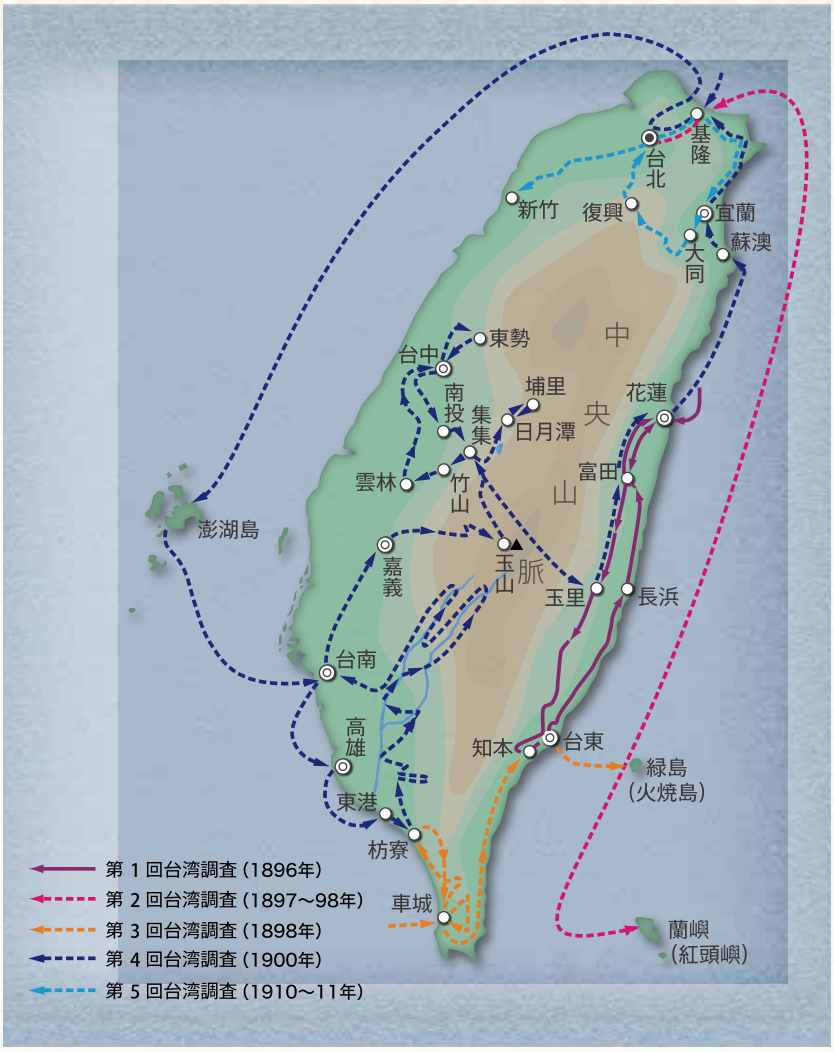
鳥居が台湾で撮影した写真は白黒写真です。しかし、先住民族の衣装をみても明らかなように、その色彩は極めて多様です。白黒写真では、同じようなデザインに見えても、実際には鮮やかな色彩の違いで、集団の違いなどがはっきりとわかりました。

鳥居が残した数多くの調査記録には、彼らが身にまとった衣服などに関する色彩の記述も豊富に含まれています。鳥居が残した白黒写真に対応する、色彩の記録を照合することで、写真に写った人々の特定など、新たな事実がわかってくると思われます。

パイワン族の男女の絵はがき
戦前に発行され、白黒写真に彩色を施されたもの。
当館蔵

台湾先住民族の社会の変化と鳥居龍蔵の調査記録

台湾調査中の鳥居龍蔵
東京大学総合研究博物館蔵



鳥居龍蔵の調査行程図

鳥居龍蔵は５回の台湾調査で台湾全土をほぼ踏破しましたが、その調査には大きく分けて二つの時期が存在します。一つ目の時期は、1896年から1900年という短期間の間に連続して行われた４回の調査の時期であり、二つ目の時期は、その後、およそ10年の時を隔てて行われた第５回目の調査の時期です。この空白の10年間において、先住民族の社会には、どのような変化があったのでしょうか。実は、この時期、日本の植民地経営の進展などにより、彼ら固有の文化や社会は急速に変化しつつありました。

鳥居が調査のなかで残した先住民族に関する様々な記録は、大きく変化しつつあった先住民族の文化を今に伝えています。鳥居が記録した資料は、現在の台湾先住民族の人々にとっても貴重なものであり、自らの歴史を振り返り、自分たちの伝統を将来につなげていくために重要な意味を持っているのです。

鳥居龍蔵が記録した台湾

2023年３月12日発行

編集　徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
〒770-8070　徳島市八万町向寺山　文化の森総合公園内
TEL 088-668-2544　FAX 088-668-7197

発行　鳥居龍蔵がつなぐ台湾と徳島の文化交流事業実行委員会

令和４年度　文化庁Innovate Museum事業

文化庁
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan